

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご(1ユニットめ)		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和 7年 6月 25日	外部評価結果確定日	令和8年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4270401195-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺めることが出来る場所にあります。病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急の対応に、ご家族様も安心していただいております。また、ご家族や知人が病院受診の際、立ち寄ることが出来るので頻繁にコミュニケーションを取っていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である病院と併設をしているため、緊急時も含めすぐに対応できることから、家族や職員も安心して支援ができています。また、2つのユニットが廊下を挟んで繋がっているため、職員も隣のユニットを見守ることができ、利用者も自由に行き来ができるメリットがある。排泄支援の場面において、できるだけトイレに座ってもらえるよう支援をしている。立位保持を支援をすることにより、日常生活動作の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関わられるよう職員間で意識付けしている。</p>	<p>設立当初に、「安らかな笑顔の追求」という理念を掲げたが、入院患者や同法人の他のサービスと繋がりをもちたいという思いから、現管理者が、「この町のつながりを持ちながら」というサブタイトルをつけている。職員へは理念についての周知はしており、「安らかな笑顔の追求」をするため、職員が企画を考えて、利用者の自然な笑顔を出せるようにしている。</p>	<p>職員に対しては理念の周知が丁寧に行われている一方で、家族への説明はまだ十分とは言えない状況である。家族と理念を共有することは、今後の信頼関係づくりにも繋がっていくと考えられるため、理念のすべてを伝える必要はないが、事業所が大切にしている思いや姿勢を、家族にもわかりやすく伝える工夫があると望ましい。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>感染症予防の為もあり交流や面会の機会が減っていたが、現在は面会が可能になり少しずつ交流の機会が増えてきている。</p>	<p>以前は地域の夏祭りや、行事に利用者連れて参加していたが、現在は車椅子を利用する方が増えてきたことに加え、コロナ禍により地域の行事自体が中止されるなど、地域との交流は難しい状況である。そのような中でも運営推進会議に、地域の方に参加してもらうことで、可能な限り地域との繋がりを保つよう努めている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議で、各施設の職員さんや自治会長、民生委員、介護保険課担当と意見交換を行い、認知症の人への理解や支援方法を共有している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全職員に報告して、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議は法人内の他のサービスと合同で実施をしている。利用者家族へは参加の促しをしているが、利用者家族も高齢になってきたり、様々な事情により、参加が難しい場合もある。また、自治会の方からは、「認知症の方との接し方」についての相談を受けたり、地域で介護が必要な方に関する情報が寄せられることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂くことにより顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力体制を取って頂くようにしている。	小長井支所へ、介護保険の更新手続き等行政手続きを行っているので、何かある時は手続きの際に尋ねている。また、運営推進会議に介護保険課の方が参加しているので、情報交換ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「生命に危険がある場合のみ」を原則として、基本的に拘束しないよう取り組んでいる。	基本的に身体拘束をしない方針であるが、現在1名の利用者に対して、車椅子使用時にY字ベルトを用いた身体拘束を実施している。理由としては、両足で車椅子を操作しながら前傾姿勢で手すりを引っ張るように移動するため、転倒のリスクが極めて高い状況であることによるものである。家族の同意も得た上で、令和6年12月26日より対応を開始をしている。身体拘束の実施にあたっては、毎月開催される法人全体の身体拘束委員会で、内容について検討をしており、緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察に日々の記録を残している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者様はいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席してもらったり、施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向をお尋ねしている。また、面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。ご意見箱も設置している。	事業所の入り口に、ご意見箱を設置しているが、ほとんど入ることがなく、家族からは直接話がある。今まで、食べ物の持ち込みは可能かという問合せがあっている。また、物価高により、食費や水道高熱費の値上げをした時には、徐々に値上げをして欲しかったという意見があっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して代表者に活動を繋げている。	職員は日頃の会話の中で要望等を適宜管理者へ伝えており、管理者も状況に応じて個別に面談の機会を設けるなどの対応を行っている。また、管理者は職員ができるだけ離職に繋がらないよう、日々配慮をしている。さらに管理者自身も、法人の事務長に相談を行うことで、自身のストレスの蓄積を防ぐよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事などを開催した場合、休日出勤者に対しては超勤書類を提出してもらい、給与にプラスしてもらうようしている。希望公休2回、勤務変更届出も制限なく変更できるよう配慮してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は観覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い出来るだけ参加するよう呼びかけている。研修は勤務扱いにしてもらっている。法人内での研修の参加。欠席の場合はレポートの提出などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話を伺える時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握したうえで、家族様が困っている事や不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い状況等も確認し、何が必要かを見極め対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えていくための協力体制を築けることが多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある理容室から散髪に来てもらったり、利用者様へ届け物があった際にはお礼の電話をされる手伝いを行っている。	町内の理容師の方が、2～3ヶ月に1回の頻度で訪問している。また併設する病院の浴槽を使用しているため、入院患者や他のサービス利用者や顔馴染みの方々と交流する機会があり、馴染みの関係の継続に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いが出来るよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒にやっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は家族様にお伺いし、思いを支援に繋げている。	職員は、日々の会話やしぐさなどから入居者の思いや意向をくみ取り、業務日誌に書き込み職員同士で共有している。家族からは、日用品の持ち込みの際、近況報告をしながら聞き取りを行う。入居者の自宅へ帰りたいたいの思いに、家族、医師、他の部署の協力を得て入居者本人の意欲も高まったものの、実現できなかったという事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み情報収集に努めている。面会者の方から話を聞いたりしたことを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日ごろの関わり合いのなかで思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全スタッフでの意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	大半の入居者は、同法人、同グループ法人から入居され、同時に情報提供を受ける。ケアマネジャーと管理者で原案を作成し、全職員でモニタリングを行い、短期で3ヶ月、長期で半年から1年で更新をする。洗濯物を畳む等の生活リハビリを取り入れているが、入居者には無理強いせず、声かけをして参加を促している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉などの記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して柔軟に対応できるようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事などに参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア1枚向こうの病院へ受診、往診が出来る。また、月2回の訪問診療がある。	月2回、各ユニット毎に、併設した病院の医師の訪問診療(内科)を受けている。近隣の歯科医院については往診も可能だが、必要に応じて職員や家族が付き添って受診することもある。また、他科受診に関しては、家族が原則として付き添って対応している。併設した病院には、医師と看護師が24時間常駐しているため、職員・家族ともに大きな安心材料となっている。与薬については、職員同士でダブルチェックを行い、服薬完了まで見守りを徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drにより利用者様、ご家族様に病状説明を行って頂き、その後の情報交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、近年看取り等はない。	口から食物が食べられない、処置が必要となった場合、主治医から家族へ容態の説明を行う。延命を行うかなどの話し合いを行い、同グループ内へ住み替えとなることが多い。入居者が急逝した時、併設した病院に連絡し対応した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難いので研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所だけではなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。	法人全体で、火災を想定した訓練を行っている。食料備蓄は法人で一括して行っており、おむつについては退去者からの寄付や入居者個人でも備えている。台風などの予測がつく自然災害時には、職員は勤務を調整し、体制を整えて事前の対策を努めている。	最近、諫早市で震度4の地震が起きた。いつ災害が起こるか分からないため、地震・水害の自然災害についての避難訓練を法人主体の訓練に加えることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり、色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。	職員は、主に入居者の苗字に「さん」をつけて声掛けを行う。法人全体で、プライバシー確保についての研修を行っており、最近では、暴言・無視・言葉使いなどハラスメント研修を受けレポート提出を行った。お便りを家族以外に提出する時には、写真に目隠しをして身バレの防止を行っている。	「虐待の目チェックリスト」を使い、虐待の観点から日々の接遇を振りかえりを行うことで職員と入居者の信頼関係が深まることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人に衣類を選んで頂くようにしている。自己決定しにくい方にも、行事などの際はおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備や後片付けをしている。 (一部の利用者様に限られる) 饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。	ごはんのみ事業所で焼き、おかゆ、おかずは併設した病院の厨房で作られ、職員が盛り付けをする。献立表の他に、入居者毎の主食、副食、飲み物と分けた食事形態の表がある。飲み物は、温かい牛乳、冷たい牛乳、乳飲料と分けており、細かい配慮が見られる。入居者全員、箸やスプーンを使い自立摂取である。おやつとして、お饅頭、おはぎ、桜もちを作るときは、入居者にもできる範囲で手伝ってもらおう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態を変更して誤嚥がないように配慮している。厨房スタッフとも連携している。また、毎食の食事摂取量も記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿意のある一部の方は、その都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	入院によって寝たきりとなっていた入居者が、トイレでの介助が可能となるまでに改善し、現在は夜間のみおむつを使用している。他の入居者は日中・夜間ともにリハビリパンツを使用している。自分でトイレに行く入居者を除いて、排泄リストによりタイミングを予測しトイレ誘導をする。また、トイレでの立位保持を目的とした支援を行うことで、入浴時などの介助がしやすくなるという効果もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶ゼリーや内服薬での調整、飲料水を多めに摂って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を摂ってもらう等工夫している。飲料水が少ない方にはお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、法人機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。	週2日、併設した病院の大浴場を利用して入浴をしている。機械浴(座位入浴)も完備され、車いすの入居者も湯に浸かることができる。他のサービスの利用者も入浴するため、可能な限り同性介助を行う。シャンプーなどの消耗品は家族の持ち込みとなる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯物たたみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様、家族様の希望があったときは、主治医と相談し外出できるよう支援している。天候が良い日は、施設周辺の散歩を行うなど外気浴を行っている。	以前は花見など外出していたが、近年は車椅子の入居者が多いため、全体での外出はない。外の景色を眺めに、駐車場や病院の屋上へ行くにとどまっている。自宅に帰る、墓参りなどの外出については、家族の対応となる。外出ができない分、室内で、パン食い競争やボーリングなどのミニ運動会や風船バレーのレクレーションを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事業所かかかって頂けるよう支援をしている。 携帯電話持ち込みの方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。季節感がわかるように飾りつけなど行っている。	壁には、手作業レクリエーションで作成した貼り絵の花火の絵が飾られていた。職員は、朝食とお茶の時間の間に掃除をし、感染対策として手すりの消毒を行う。入居者は、趣味や手作業レクリエーションをするなどをして過ごす。訪問調査当日に、津波のニュースが放送されていたが、不安要素をなリエると思ひ、違う放送へ切替を行う配慮があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では車いす同士が離合でき自由に過ごせている。ソファも置きくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。	私物の持ち込みは危ないものではない限り規制はしていない。タンス、ベット、棚は、事業所の物であり、入居者毎に配置は違う。部屋には、家族の写真や誕生日の時の色紙が飾っている。照明は部屋にいない時は消し、温度設定は変えず着るもので調整している。衣替えで必要としない衣服は事業所内で保管している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等には手すりを付けたり工夫している。間接照明を設置し、夜間でも安全に過ごせるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご(2ユニットめ)		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和 7年 6月 25日	外部評価結果確定日	令和8年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺めることが出来る場所にあります。病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急の対応に、ご家族様も安心していただいております。また、ご家族や知人が病院受診の際、立ち寄ることが出来るので頻りにコミュニケーションを取っていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4270401195-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年7月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関われるよう職員間で意識付けしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防の為もあり交流や面会の機会が減っていたが、現在は面会が可能になり少しずつ交流の機会が増えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、各施設の職員さんや自治会長、民生委員、介護保険課担当と意見交換を行い、認知症の人への理解や支援方法を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全職員に報告して、サービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂くことにより顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力体制を取って頂くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「生命に危険がある場合のみ」を原則として、基本的に拘束しないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者様はいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席してもらったり、施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向をお尋ねしている。また、面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。ご意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して代表者に活動を繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事などを開催した場合、休日出勤者に対しては超勤書類を提出してもらい、給与にプラスしてもらおうようしている。希望公休2回、勤務変更届出も制限なく変更できるよう配慮してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は観覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い出来るだけ参加するよう呼びかけている。研修は勤務扱いにしてもらっている。法人内での研修の参加。欠席の場合はレポートの提出などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話を伺える時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握したうえで、家族様が困っている事や不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い状況等も確認し、何が必要かを見極め対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えていくための協力体制を築けることが多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある理容室から散髪に来てもらったり、利用者様へ届け物があった際にはお礼の電話をされる手伝いを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いが出来るよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は家族様にお伺いし、思いを支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み情報収集に努めている。面会者の方から話を聞いたりしたことを共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日ごろの関わり合いのなかで思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全スタッフでの意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉などの記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対して柔軟に対応するようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事などに参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア1枚向こうの病院へ受診、往診が来ている。また、月2回の訪問診療がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drにより利用者様、ご家族様に病状説明を行って頂き、その後の情報交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、近年看取り等はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難いので研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所だけではなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり、色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人に衣類を選んで頂くようにしている。自己決定しにくい方にも、行事などの際はおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備や後片付けをしている。 (一部の利用者様に限られる) 饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態を変更して誤嚥がないように配慮している。厨房スタッフとも連携している。また、毎食の食事摂取量も記録して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿意のある一部の方は、その都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶ゼリーや内服薬での調整、飲料水を多めに摂って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を摂ってもらう等工夫している。飲料水が少ない方にはお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、法人機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯物たたみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様、家族様の希望があったときは、主治医と相談し外出できるよう支援している。天候が良い日は、施設周辺の散歩を行うなど外気浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事業所かかけて頂けるよう支援をしている。携帯電話持ち込みの方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。季節感がわかるように飾りつけなど行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では車いす同士が離合でき自由に過ごせている。ソファも置きくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等には手すりを付けたり工夫している。間接照明を設置し、夜間でも安全に過ごせるよう支援している。		